

国民健康保険天草市立河浦病院 が担う役割について

令和5年2月 国民健康保険天草市立河浦病院

1 現状と課題（1 / 8）

◎天草市立病院の理念、基本方針

基本理念	私たちは、市民が必要とする医療を提供し、市民に信頼される病院及び診療所を目指します。
基本方針	<p><病院事業の継続> 天草市は、市民の健康な生活を支援する施策として、病院事業を継続し、市民の健康と福祉の増進に努めます。</p>
	<p><地域医療の確保> 市立病院は、今後も連携して天草市域を対象とした地域医療の確保に努めます。</p>
	<p><経営改革の推進> 市立病院は、「安定した経営基盤の確立」、「安全・安心の医療提供」を目指した経営改革を進めます。</p>
	<p><災害対策医療体制等の整備> 市立病院は、災害対策医療に力を入れ、災害拠点病院等と連携し自然災害、新興感染症に対応できる病院として体制を整備します。</p>

1 現状と課題 (2 / 8)

【自施設の現状と課題】

◎担うべき役割や機能の明確化

当院を含む天草市立4病院は、今後さらに深刻化する人口減少、少子高齢化の中で、持続可能な医療提供体制を確保するため、担うべき役割の明確化、病床数や病病床機能等の見直しの案をまとめ、令和元年12月に開催された「第8回天草地域医療構想調整会議」において報告を行い、合意を得ることが出来ました。

その、合意していただいた案を基に「第4期天草市立病院改革プラン」を令和3年3月末に策定し、病床数、病床機能を見直したほか、診療体制の見直しを進めているところです。

また、令和4年4月に総務省が「持続可能な地域医療提供体制を確保するための公立病院経営強化ガイドライン」を策定し、これを基に公立病院は「経営強化プラン」を策定することになっていますので、本市では「第4期天草市立病院改革プラン」の基礎的な部分はそのままに、必要事項の追記、計画期間、収支計画等の見直しを行った『天草市立病院経営強化プラン』を現在作成中で、令和5年3月末の完成を予定しています。

1 現状と課題 (3 / 8)

役割の明確化	牛深市民病院との機能分担を図り、回復期慢性期医療中心の体制とするが、河浦・天草地域唯一の病院のため、一定の救急機能は維持する。
病床機能及び診療体制の見直し	<ul style="list-style-type: none">・熊本大学病院地域医療・総合診療実践学寄附講座河浦教育拠点の設置に合わせ、より地域医療の診療体制を充実させるために、地域住民と継続的な人間関係を築き、患者一人一人の個性や家族の状況、さらには地域環境も考慮し診療を行うことを方針とした「家庭医療センター」を設置し、地域の医療機関と連携しつつ住民の健康のために地域を「まるごと診る」医療に取り組み、地域医療に携わる医師の養成を行っていく。・「家庭医療センター」を中核機能に据え、超高齢化社会に向けて訪問診療、訪問看護、訪問リハの在宅医療体制を充実させ、併せて地域連携室の機能も拡充を行い、地域の医療機関、福祉・介護施設と一丸となり医療・福祉・介護の連携の充実を図る。・熊本県から令和2年度に指定を受けた「在宅医療サポートセンター」による天草・河浦エリアの在宅医療提供体制の充実を図り、将来的には牛深エリアのサポートも目指す。・天草町地域の医療確保のため、「高浜巡回診療所」を開設【令和3年9月】・市の施設健診を受託し、健診業務の取り組みを拡充する。

1 現状と課題 (3 / 8)

病床数の
見直し

・ 人口減少による患者数減を見込み、病床数については66床とする。

病床機能	見直し前	見直し後 (令和3年3月末)
回復期	39床	26床
慢性期	60床	40床
計	99床	66床

◎自施設の診療体制

【届出入院基本料】

	病床数	基本料
一般病棟	26床	一般病棟入院基本料 1 3 対 1 (地域一般入院料 1)
療養病棟	40床	療養病棟入院基本料 2

【診療科】

内科、外科、整形外科、リハビリテーション科

1 現状と課題（4／8）

【自施設及び診療圏の特徴】

- ・ 当院の主な医療圏は河浦・天草地域となっており、地域内唯一の病院です。
- ・ 地域の初期医療、急性期医療、回復期医療、在宅医療、救急告示病院を担う病院として地域医療の拠点となっています。
- ・ 河浦・天草地域は高齢化率が高く、公共交通機関が少ないことから、地域内で引き続き医療提供体制の確保が必要です。
- ・ 教育拠点設置による医師教育への取り組みを行っています。

令和3年4月から熊本大学病院、熊本県及び天草市病院事業間の協定により、河浦病院に熊本大学病院地域医療・総合診療実践学寄附講座河浦教育拠点（以下「教育拠点」という。）を設置し、地域医療に貢献できる医師の養成を行っています。

具体的には、熊本大学病院が教育拠点に教員（医師）を配置し、その教員の指導のもと河浦病院や御所浦診療所など地域医療を担っている医療機関で医学生、医師等が家庭医・総合診療に係る臨床教育・研修を受けます。

また、教育・研修と併せて家庭医・総合診療の研究も行い、熊本県内の地域医療の再生に寄与することとしています。

1 現状と課題（5／8）

【政策医療について】

・5疾病について

急性心筋梗塞急性期、脳卒中急性期等の当院で対応できない場合は拠点病院及び地域医療支援病院である天草地域医療センター等と連携し対応しています。

その他の急性期を過ぎた患者について、医療機関と連携し、回復期医療として受け入れを行っています。

・ 5事業について

病院群輪番制病院に参加し、救急医療、夜間や休日の急患にも対応しています。

救急医療については、二次救急を標榜し主に河浦町及び天草町における救急患者を受け入れています。

1 現状と課題（6／8）

◎自施設の診療実績

【入院の状況】

		H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
病床数 (床)	一般	39	39	39	39	26
	療養	60	60	60	60	40
	合計	99	99	99	99	66
患者数 (人)	一般	11,091	10,912	10,031	8,805	7,306
	療養	15,577	16,507	15,016	12,054	10,881
	合計	26,668	27,419	25,047	20,859	18,187
病床 利用率 (%)	一般	77.9	76.7	70.3	61.9	77.0
	療養	71.1	75.4	68.4	55.0	74.5
	合計	73.8	75.9	69.1	57.7	75.5
1日当りの平均患者数		73	75	68	57	50
在院日数（一般のみ）		19.9	21.3	22.7	22.9	22.2

注：令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症対応のため、患者数は減少している。

1 現状と課題（7 / 8）

【外来の状況】

	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
患者数	37,816	36,808	34,433	31,360	31,475
1日当りの平均患者数	129	126	119	107	107

注：令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症対応のため、患者数は減少している。

◎自施設の職員数（R4.4.1現在）

部門	職種	人数	部門	職種	人数	
医局	医師	5	栄養管理係	管理栄養士	1	
薬局	薬剤師	1		(委託)		9
	事務補助	1				
看護課	看護師	44	医療連携室	社会福祉士	2	
	看護補助	17		看護師	1	
		看護事務補助	0	事務部門	医療事務（委託）	6
X線係	臨床放射線技師	1	医師事務作業補助		1	
検査係	臨床検査技師	2	事務職		5	
リハビリ部門	理学療法士	2	労務職		2	
	作業療法士	1	合計		104	
	事務補助	3				

1 現状と課題（8／8） 受託業務等

	医療・福祉機関	業務内容	対象者
健診 受託 業務	<ul style="list-style-type: none"> ・特別養護老人ホーム実相園 60人 ・救護施設天草園 70人 ・特別養護老人ホーム春光苑 50人 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期健康診断 入所者健診(年1回) 各種予防接種 職員健診(年1回) 特定業務従事者健診(年2回) ・随時健康診断 	<ul style="list-style-type: none"> 全入所者 全入所者・全職員 全職員 夜勤者・宿直者 新規入所者
医師 派遣	<ul style="list-style-type: none"> ・特別養護老人ホーム実相園 ・特別養護老人ホーム春光苑 ・救護施設天草園 	<ul style="list-style-type: none"> 入所者の健康管理、診療等 実相園(週2回)春光苑(週1回) 天草園(週1回) 	施設入所者
その 他	<p>天草市</p> <p>学校医（天草小学校・天草中学校） 保育園等</p> <p>市内事業所等 産業医活動 牛深警察署</p>	<p>特定健診 施設健診 乳幼児健診 各種予防接種 健康教室 訪問指導</p> <p>入学前健診及び児童生徒健診 一町田保育園病後児保育診療 崎津保育園園児健診 事業所職員健診等</p> <p>市内事業所 警察嘱託医</p>	<p>市民</p> <p>児童生徒 保育園児 保育園児 市民 事業所職員</p>
連携	介護保険機関等 河浦、天草地区	入院等医療連携	入所者等

2 今後の方針（1/2）

【地域において今後担うべき役割】

◎地域医療で担うべき役割

4 ページに記載のとおり、令和3年3月末に“役割の明確化”“病床機能及び診療体制の見直し”“病床数の見直し”を掲げ、地域に必要とされる医療を提供することで、持続可能な医療提供体制を確保していくとともに、地域包括ケアシステム構築に向けての役割も併せて果たしていく方針です。

◎新興感染症で担うべき役割

2020年から現在（2022年）まで流行が続いている新型コロナウイルス感染症の対応では、外来では診療・検査医療機関、検査センターとして発熱患者等の対応に当たり、延べ1,632件（R5.1月末現在）の検査を実施し、ワクチン接種業務では延べ11,139人（R5.2月現在）へ接種を行いました。また、入院では重点医療機関として最大で4床を確保し、延べ971人＜実人数：86人＞（R5.1月末現在）の患者受け入れを行っています。

今後も新たな新興感染症が発生した場合は、新型コロナウイルス感染症対策で整備した施設、機器等を活用し同感染症対応と同等の対応を行ってまいります。

その他にも今回の経験等を活かした感染対策マニュアル、診療継続計画等の関連計画の更新、策定、感染防護具等の備蓄等を行ってまいります。

2 今後の方針（2／2）

【地域において今後担うべき役割】

◎必要な医師の確保

- ・ 必要医師数は、熊本県より自治医科大学卒業医師の派遣及び、熊本大学病院教育拠点として医師の派遣を受けることで確保が出来ている状況にあります。しかしながら、地域のかかりつけ医として可能な限り当院の長期的な常勤医師としての確保ができるよう関係機関への働きかけ等を行っていきます。

◎必要な医療従事者の確保

- ・ 今回の新型コロナウイルス感染症の発生を機に感染症対策の一つとして、市立病院内で“感染管理認定看護師”の育成を予定しています。
- ・ 令和3年度には社会福祉士を採用し、病院間や介護保険事業所等との連携が強化され入退院調整や訪問事業をスムーズに行うことが出来るようになりました。

今後も地域の医療ニーズにあわせた医療従事者の確保に努めてまいります。

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【① 4 機能ごとの病床のあり方】

単位：床

病床機能	2017年(平成29年)	2023年(平成35年)	2025年(平成37年)
高度急性期			
急性期			
回復期	39	26	26
慢性期	60	40	40
その他			
合計	99	66	66

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【②診療科の見直し】

	現時点 (2023年3月時点)	2025年	理由・方策
維持	内科、外科、整形外科、 リハビリテーション科	内科、外科、整形外科、 リハビリテーション科	現状の診療科を維持
新設			
廃止			
変更・統合			

3 具体的な計画 (2) 数値目標

	現時点(令和元年度時点)	2025年
①病床稼働率	69.1%	92.4%
②紹介率	28.2%	28.0%
③逆紹介率	22.6%	23.0%

注：現時点の数値は、令和2、3年度が新型コロナウイルス感染症患者受け入れの影響で比較対象とならないため、令和元年度の数値とする。

3 具体的な計画

(3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題（1 / 2）

【取組みと課題】

◎数値目標達成に向けた取組や課題

<病床稼働率>

当院を受診される方は主に河浦・天草地域の住民で占められており、他地域からの患者流入は見込めない状況にあります。

このような中、地域の人口減少に合わせ病床数を令和3年3月末に削減したことで稼働率は上昇していますが、今後更に人口減少が続く場合は、再度病床数の見直しが必要になるとみています。

<紹介率・逆紹介率>

当院を受診され、5疾病・交通事故など当院での対応が難しい場合の拠点病院、専門病院等への逆紹介、また、回復期・慢性期の病床機能を持つ病院として拠点病院等との連携を強化させ当院への紹介増を目指します。

併せて地域内のクリニックとの連携や、訪問事業の拡充を図りエリア内の訪問の紹介にも対応してまいります。

3 具体的な計画

(3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題 (2 / 2)

【取組みと課題】

◎医師の働き方改革への取組

現在、常勤医師の時間外労働の状況は、2024年4月から開始される「医師の時間外労働規制」のA水準（月100時間、年間960時間）に該当しています。

時間外労働がA水準であるのは、土日の勤務を大学等からの派遣医師に頼っていることが一つの要因となっていますが、今後時間外労働時間の上限が設けられますと、大学等から派遣を断られる可能性があります。

当院としては、派遣が継続されるよう労働基準法に基づく「断続的宿日直勤務許可」を得れるように努めてまいります。

4 その他特記事項

【地域包括システムの構築に向けて】

当院は、超高齢化社会に向けて自院の訪問事業とともに地域の在宅医療を充実させる取組みを進めています。

また、今年度は、行政とともに医師が地域に出向き健康講座の実施や看護師の戸別訪問など健康増進等も行いました。

これら訪問事業は、「家庭医療センター」を中核として業務を行っていますが、医師等スタッフの不足から夜間・休日対応が厳しい状況にあります。

今後充実した在宅医療や地域医療を提供するために、地域の医療機関との更なる連携や、医師等スタッフの育成と確保を行います。

これからの超高齢化社会に向けて、地域医療を保持するとともに地域の健康増進に寄与し、可能な限り住み慣れた地域で生活を維持することができるよう地域包括システム構築に向けて、地域の医療機関との連携や、地域住民・行政・医療・介護が一体となった取組みを進めてまいります。